

# キリストへの時間

「キリストへの時間」協力委員会報

## 「手渡されているバトン」

「キリストへの時間」協力委員会委員長 横山良樹

昨年ラジオ放送「キリストへの時間」が、放送開始から60年を迎えました。わたくしはその記念誌のふろくの説教・讃美歌CD作成のために、「キリストへの時間」の残されている古い録音をいくつか聴き返す時を与えられました。1960年代の録音を聴いておりますと、いまの自分に欠けているものを示されたような気がいたしました。ひとことでいうと、みな伝道説教なのです。録音するマイクの向こう側にいる人々の、魂に向かって呼びかける切実さのレベルが違うように思われました。このCDには村上伸先生、土岐林三先生、水垣清先生、石丸新先生の説教を収めておりますが、それらを聴いて頂ければ、わたしの言いたいことは分かって頂けるのではないかと思います。このひたむきさ。「み言葉を、宣べ伝えずんば止まず」という伝道者のスピリットを、わたしはこれほどに持っているかということ問われた気がします。それは成熟してしまったわたしたちの社会が、そして複雑になったわたしたちの社会の中で教会が見失っているものではないかと思わされました。

さかのぼって考えれば福音伝道はイースターの日の朝、主イエスの墓の前から始まっています。「あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。さあ、遺体の置いてあった場所を見なさい。それから、急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。』確かに、あなたがたに伝えました」婦人たちは、恐れながらも大いに喜び、急いで墓を立ち去

り、弟子たちに知らせるために走って行った」。

(マタイによる福音書28章6～8節)

この聖書箇所にはすべての福音伝道の始まりが記されています。陸上競技に例えるなら、最初のランナーがバトンをもって走り出した瞬間の記録といえるでしょう。この最初にバトンを持って走り出した婦人たちが持っていた熱のようなものがわたしたちから失われているのではないのでしょうか。「確かに、あなたがたに伝えました」と主の使いが婦人たちに託したメッセージは、死を打ち破られた主の復活とふたたび主にお目にかかれるという再臨の希望でした。今の時代、この社会に生きる人々の魂に向かって、確かに、あなたがたに伝えた、という福音の内容を、新しく語る出来事としての言葉を見出すこと、そして生きること、伝道の生命線がかかっていると思われてなりません。この空<sup>から</sup>の墓の前から始まった働きに、わたしたちすべての者が必要とされ、召されています。バトンを持って走る人々は次々と代わります。しかし、福音の聖火リレーは走り続けます。主がそのことをお望みなのです。主の死を告げ知らせ、復活の主を賛美し、託された福音伝道の業にいそしみつつ、再臨の主を待ち望む。そのための新しい言葉の発見とわたしたちの献身が求められています。神さまは他にどんな手段をお取りになることが出来たにもかかわらず、わたしたちを用いて福音を伝える働きを進めてゆかれます。ラジオ放送「キリストへの時間」もその一翼を担っています。どうかお祈り、お支えをよろしくお願いいたします。

## 「コハガラナクテモイトイヒ」

日本キリスト改革派名古屋岩の上教会牧師 相馬伸郎

「だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。」

コリントの信徒への手紙Ⅰ 第11章 26節

おはようございます。今、朗読していただきました御言葉は、教会の礼拝式で祝われる聖餐の礼典の際に読まれる御言葉の一節です。使徒パウロは、「キリスト者は、主イエスさまの十字架の死の事実を全ての人々に告げ知らせる特権と責任があるのだ」と語ります。どうして、イエスさまの十字架の死は、それほどまでに大切なのでしょうか。理由は、明らかです。それは、この十字架のイエスさまを信じれば、誰でも救われるからです。神の刑罰を受けて死ぬこと、滅びから救い出されるからです。

私は、宮沢賢治さんの「雨ニモ負ケズ」という詩が大好きです。残念ながらすべてを朗読する時間はありませんが、少し読ませていただきます。

「雨ニモマケズ 風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

丈夫ナカラダヲモチ

慾ハナク 決シテ瞋ラズ

イツモシツカニワラッテキル」

さらにこのような言葉もあります。

「東ニ病氣ノコドモアレバ

行ッテ看病シテヤリ

西ニツカレタ母アレバ

行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ

南ニ死ニサウナ人アレバ

行ッテコハガラナクテモイ、トイヒ」

実は、この中に、昔からとても気になっていた言葉があります。「南ニ死ニサウナ人アレバ行ッテコハガラナクテモイトイヒ」という箇所です。ここで少し考えてみたいのです。看病や稲刈りを

してあげることと「怖がらなくてもよい」と言うこととは、どちらが難しいことでしょうか。私は、「怖がらなくてもよい」と一言、言うことの方だと思います。なぜなら、死を怖がっている人では言えないからです。第二に、死を怖がらなくても良い理由をちゃんと言えなくてはならないと思うからです。ただし宮沢賢治自身は、この詩を「そう言う人に、わたしはなりたい」と結んで、「自分はまだなれていないのです」という含みを込めています。

実は最近、私は、この詩には、ひとりのキリスト者のモデルがいたという有力な説を知りました。その人は、斎藤宗次郎さんと言ひ、賢治の同郷花巻の人で、近所に住んでいました。小学校の先生をしていたのですが、迫害によって辞めさせられました。さらに、最愛の9歳のお嬢さんを、今で言う、イジメによってお腹を蹴られたことがもとで喪ってしまったのです。親にとって、地獄のような苦しみであり悲しみであったと思ひます。ところが彼はなんと、迫害する人たちのために祈り続け、愛し続けました。ついに「花巻のトルストイ」と呼ばれるほど深い尊敬を得たとされています。賢治自身も、宗教は違い、年上でもありましたが深い尊敬をもって交流を深めました。

いったい斎藤宗次郎は、どうして「怖がらなくてもよい」と言えたのでしょうか。それは、彼が、キリストの十字架の死の事実とその意味を知っていたからです。彼自身が、その救いの恵みにあずかって、安心して生きていたからです。おそらく彼は、死に瀕した方の病床で、このように告げたのではないかと思います。「あなたの代わりに、あなたの本当の死を死んで、地獄に下ってくださった方がいらっしゃいます。その方が、イエス

さまです。イエスさまこそキリスト、救い主です。あなたが、今、イエスさまを信じれば、もう、怖がらなくとも大丈夫です。あなたは、今ついに本当の故郷、天の父なる神さまのいらっしゃる天国へと出発するのです。」

3年前のことです。病床にあるひとりの男性を訪ねさせて頂きました。「イエスさまの御名をお呼びすれば、天国に行けます。大丈夫です」とお話

させて頂きました。その方は、主イエスのお名前を呼んで、やがて安心して天へと出発して行かれました。主イエスは、誰のどのような苦しみも悲しみも、ご自身の十字架によって救ってくださいます。主イエスは今、あなたにも、そっと語っておられます。「大丈夫だ。もう、怖がらなくてもよい」。アーメン。

.....



### = 仕事場からの感想 =

「キリストへの時間」放送伝道開始60周年記念誌を刊行できましたが、多くの方からお祝いのお言葉をいただきましたので、その一つをご紹介します。神戸の方ですが「.....私がマキルエン先生の秘書になったのは1954年です。マカルピン先生から送られてくる「キリストへの時間」の大きな大きなテープを、市電に乗って須磨のラジオ関西局まで届けていました。.....」。

CBC局からこのような方々に支えられて全国各地に福音の種がまかれたのでした。

また、「記念誌の中に聖書研究の友・つのぶえと言う月刊誌の名前があり懐かしく思いました。これは、私がラジオを聴いて返事をいただいた時の中に、お便りくださった方に3ヶ月間贈呈しますと言う読み物で、心待ちにしていた読み物でした。洗礼を受けた後は購読者として、キリスト教信仰への大切な読み物となりました」と言うお便りもありました。

そうでした。放送伝道と共に文書を用いてなされたのが、この伝道事業でした。私には忘れられないことがあります。オイルショックで店頭やデパートに殺到して我先にとトイレトペーパーを買い求めた出来事の時でした。全国の紙の卸店から、印刷用の紙が消えてしまったのです。名古屋に事務所が移ってから、「聖書研究の友・つのぶえ」の印刷は数少ないクリスチャンの印刷業を営んでいた「小川兄弟社」にお願いしていましたので、機関紙の発行は望めないと諦めていた時、小川新三さん（改革派八事教会長老）が笑顔で、心配しないで下さい4ヶ月分の紙は買い求めてあります、と言って下さいました。本当に感激しました。ここにも主の支えがあったのでした。感謝なことに、休刊することなく続けてオイルショック後へと続けることが出来ました。

また、アメリカのある教会の青年会のメンバーが「ラジオ伝道のために」と車の窓拭きで得たお金を、青年会の活動として、20年近く献げ続けて下さいました。

この事業は、そのような内外の方々のお祈りと協力をいただいたの歩みでもありました。そのようなことが次々と思い出された、記念誌刊行になりました。

「キリストへの時間」協力委員フォローアップ・会計担当 長村秀勝



## 「キリストへの時間」放送予定 2014年1月～6月

### 1月

- 5日 中村 仁 (日本基督教団金城教会員)  
 12日 中村 仁 (日本基督教団金城教会員)  
 19日 ヨシダ ゴウ (日本基督教団金城教会客員)  
 26日 ヨシダ ゴウ (日本基督教団金城教会客員)

### 2月

- 2日 落合建仁 (金城学院大学宗教主事)  
 9日 落合建仁 (金城学院大学宗教主事)  
 16日 小室尚子 (金城学院大学宗教主事)  
 23日 小室尚子 (金城学院大学宗教主事)

### 3月

- 2日 辻 幸宏 (日本キリスト改革派大垣教会牧師)  
 9日 辻 幸宏 (日本キリスト改革派大垣教会牧師)  
 16日 木下裕也 (日本キリスト改革派名古屋教会牧師)  
 23日 木下裕也 (日本キリスト改革派名古屋教会牧師)  
 30日 長谷川 潤 (日本キリスト改革派四日市教会牧師)

### 4月

- 6日 横山良樹 (日本基督教団半田教会牧師)  
 13日 横山良樹 (日本基督教団半田教会牧師)  
 20日 岩淵正樹 (日本基督教団高蔵寺ニュータウン教会牧師)  
 27日 岩淵正樹 (日本基督教団高蔵寺ニュータウン教会牧師)

### 5月

- 4日 二宮 創 (日本キリスト改革派太田教会牧師)  
 11日 二宮 創 (日本キリスト改革派太田教会牧師)  
 18日 西堀則男 (日本キリスト改革派岐阜加納教会牧師)  
 25日 西堀則男 (日本キリスト改革派岐阜加納教会牧師)

### 6月

- 1日 沖崎 学 (金城学院高等学校宗教主事)  
 8日 沖崎 学 (金城学院高等学校宗教主事)  
 15日 沖崎 学 (金城学院大学宗教主事)  
 22日 後藤田典子 (金城学院中学校宗教主事)  
 29日 後藤田典子 (金城学院中学校宗教主事)



## 「キリストへの時間」

### 60周年記念誌完成!



このたびCBCラジオ放送「キリストへの時間」60周年記念誌を刊行することが出来ました。

1952年に放送が開始されてから60年、南長老派ミッションの伝道事業として始まった放送伝道の業が、わたしたちに引き継がれて、途切れることなく毎日曜朝6時半から続けてこられたことはまことに感謝なことです。今では日本キリスト改革派中部中会、日本基督教団中部教区、金城学院、名古屋学院、岐阜済美学院、それらに属する信徒の方々の祈りと献金によって、このユニークな伝

道の業が続けられています。

「キリストへの時間」協力委員会は60年の節目に記念誌作成を決断し、編纂委員会を立ち上げました。資金の目処もつかない状態での旗揚げでしたが、神様が応えてくださり、放送のための献金には一切手をつけずに今回出版にいたることが許されました。総ページ数128頁の小冊子ですが、放送伝道がどのように始まり、どんな思いを残してきたかを可能な限り浮かび上がらせました。また過去の放送分から歴史的な放送を4回分と讃美歌を収録した80分のCDを付録とすることも出来ました。全体で600部印刷し、寄贈や配布で残部があまりありませんが希望者には1,500円でお分かちします。下記連絡先までお問い合わせください。

発行所 「キリストへの時間」協力委員会 〒461-0018 名古屋市東区主税町4-86

連絡先 〒465-0065 名古屋市名東区梅森坂4-101-22-207 TEL・FAX052-893-9585  
 E-mail: osamura@kind.ocn.ne.jp

編集発行人 横山良樹 郵便振替 00880-1-70404・キリストへの時間

CBCラジオ「キリストへの時間」(1053kHz) 毎週日曜日 朝6時30分～6時45分放送